

講座のアピールポイント

当院での腎移植は、2017年11月15日 埼玉医療センターと病院名改称し、新棟オープン後の12月1日、第1例目の生体腎移植から始まりました。2023年9月に腎移植数はすでに118例に至っておりますが、2021年度には埼玉県下の腎移植数1位となり、本年2022年3月18日には、当院発生の脳死下臓器提供に対し腎臓摘出を移植センター、泌尿器科が主体となり遂行しました。更に同日当院にて透析歴29年の女性に対し第1例目の献腎移植を施行しました。この患者さんは長らくの透析療法から開放され現在は元気に当院移植外来にて通院加療中です。

移植センターでは、基礎研究から臨床研究まで幅広く実施していますが、主に基礎研究から臨床へつなげる橋渡し研究を実施しています。とくに慢性腎不全患者さんのQOL向上につながる臨床研究を積極的に推進しています。また国内大学との共同研究にも積極的に参加しています。慢性腎臓病（CKD）について講演会なども実施し、CKD対策、啓発、診療連携体制の構築を埼玉県下で中心的な役割を担っています。2022年11月24日付けで、公益社団法人日本臓器移植ネットワークより臓器提供施設に対して臓器移植の推進に顕著な功績のあった団体として当院が選定されたとの報告とともに厚生労働大臣より感謝状が届きました。これは当院のこれまでの臓器移植の推進に向けて病院をあげての活動が高く評価されたものと思われます。今後、さらに腎移植患者会の活動支援し、埼玉県下の慢性腎不全患者さんのQOL向上につながる腎不全・移植医療に積極的に貢献していきたいと考えています。

講座研究紹介

腎移植前のドラッグリポジショニングによる免疫抑制剤の適応外使用についての臨床研究を、その必要性から当院では生命倫理委員会で適応外使用の承認（2018年12月11日付）を受けて実施しています。これは従来禁忌とされた抗ドナー抗体（DSA）高感作移植患者に対してこれら薬剤による脱感作療法を施行することでDSA抗体が大幅に減量もしくは消失すれば腎移植が施行可能となり、さらには腎移植施行後もDSA抗体が大幅に減量もしくは消失しているため抗体関連型拒絶反応（AMR）が生じ難く長期生着も良好となる可能性があるためです。本研究を実施することで有効性と安全性が明らかになれば、従来移植が禁忌と言われた高感作移植患者に対する移植適応を拡大することが出来る可能性があります。

その他、埼玉医療センターには、リプロダクションセンターを擁しており慢性腎不全患者さんの不妊に対して診断・治療における臨床研究もリプロダクションセンターとの共同研究にて行っております。